

三、鶴岡八幡宮

松坡先生が鎌倉に居を移して数年後の新年の作の一節に「近賃蝸盧且適宜 衡門斜對鶴陵祠（近くは蝸盧を賃り、且く宜に適い、衡門は斜めに鶴陵の祠に対す）」とあります。鎌倉での借家が鶴岡八幡宮に斜めに向かっていたというのです。先生の当時の借家がどの辺りかははっきりしませんが、現在の鎌倉、或いは扇ヶ谷の寿福寺の近くだった可能性があり、確かに八幡宮に対して斜めです。鶴岡八幡宮を詠んだ先生の作はいくつかあり、詩軸に仕立てられているものもあります（逗子開成学園蔵）。

松坡先生と鶴岡八幡宮との関係が深まると、先生は作品を奉納するにいたします。鎌倉に住んだ画家大橋康邦に、鎌倉の十二の名勝を描いた連作が何種かあります。昭和十（1935）年七月、康邦の十二図に松坡先生が漢詩を添えて、陸軍大将南次郎の題字を得て「鎌倉十二景圖卷」（二巻）として装した作品が、大橋康邦・田辺松坡の連名で献納されました。鎌倉市中央図書館には、その折に撮影されたと思われる記念写真があります。写っているのは、大橋康邦、田辺松坡、南次郎、八幡宮宮司の四人です。昨年（2023）暮にはその図巻が現在も八幡宮に大切に保管されていることが確認できました。

毎年八月、立秋の前日から三日間（年により四日間）、八幡宮で「ぼんぼり祭」が開かれます。昭和十三（1938）年に第一回が開催されました。松坡先生はその第一回ぼんぼり祭に漢詩を奉納しています。奉納品は現在も

八幡宮が所蔵していますが、清書原稿が鎌倉市中央図書館にあります。

神域森巖紫翠堆

神域森巖として

紫翠堆うずたかし

廟門高聳鬱崖崑

廟門高く聳え

鬱崖かい 崑かいたり

階前稽顙群男女

階前に稽顙けいそうす

群なす男女

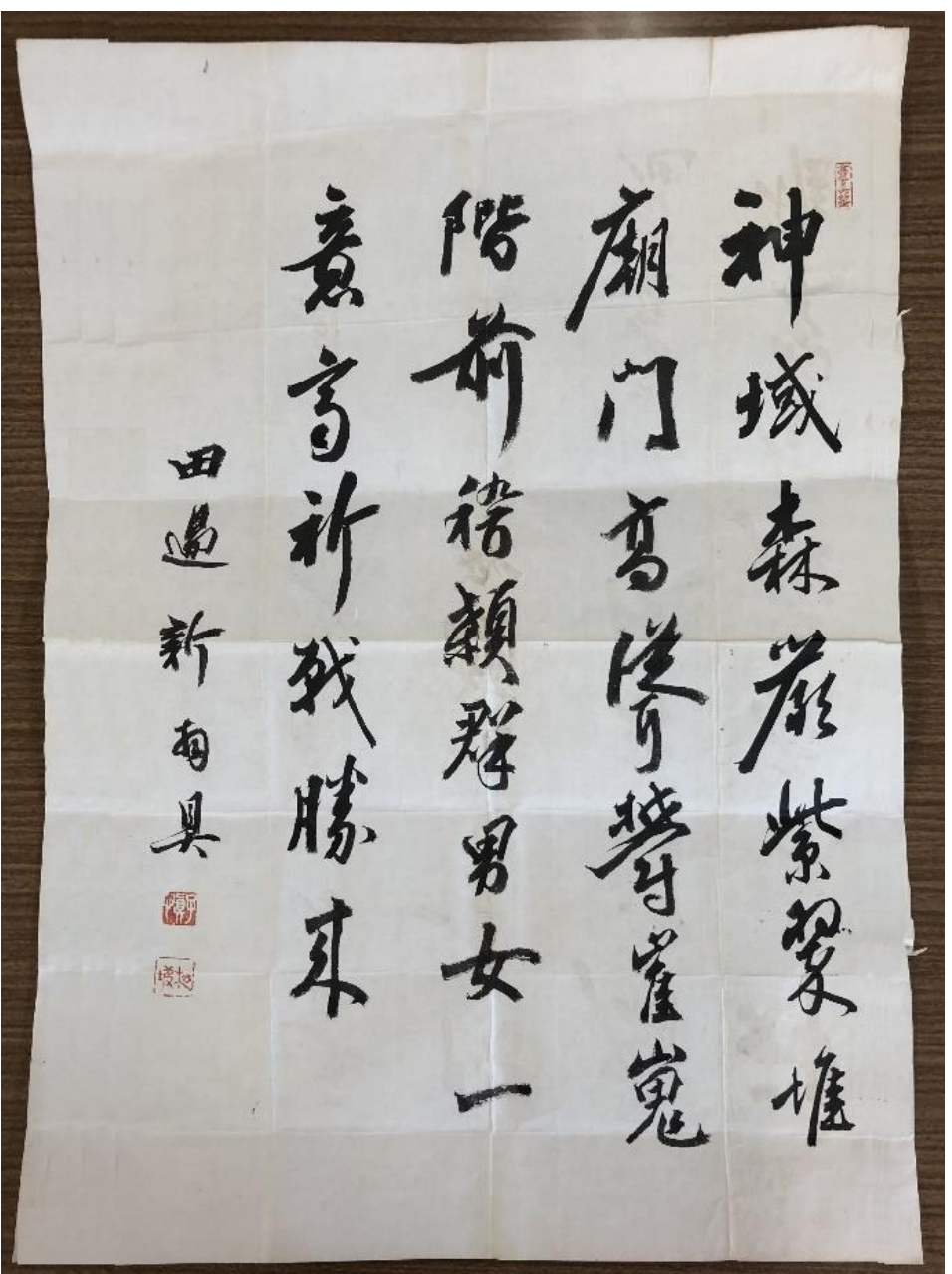
一意齋祈戦勝来

一意に齋祈す

戦勝の来たらんことを

田邊新 拜具

「稽顙」の「顙」は上額部のことで、「稽顙」は額を地面に付けて礼をすることです。昭和十三年夏と云えば、前年からの日中戦争が二進も三進もいかなくなり、五月にはオリンピック開催返上を決めた直後でした。神前で多くの参詣者が額を地面にこすりつけるようにして「戦勝の来たらんこと」を一意に祈る姿が目に見えます。松坡先生は以後、昭和十四、十五、十六、十八年のぼんぼり祭にも漢詩を奉納しています。因みに先生の次男田辺至も戦後十回、十五点の画を奉納しています。



奉納漢詩の清書原稿

(鎌倉市中央図書館蔵)